

ボランティアの ための 漢点字入門

点訳出版ボランティアサークル

大樹会

<http://n-braille.net/taijukai/>

Eメール: taijukai@n-braille.net

2006 年 3 月 製作

漢点訳に必要な知識

I はじめに

「点字には漢字がないんですか？」とよく聞かれます。ラジオを聞いていて、音声だけで内容を理解できるように、かなだけでも日常生活には不自由しないかもしれません。しかし、中途失明で点字を早く読めない人ほど、漢字がないために読解に不自由していらっしゃるようです。また、生まれつきの視覚障害者にとっても、漢点字を学習し、漢字かなまじりの本を読むようになると、かな点訳書ではもの足りなく感じます。

漢字を表す点字には「漢点字」と「六点漢字」の二種類が考案されていますが、日本点字委員会が公認しないため、盲学校教育にもあまり取り入れられていません。「点字を表す方法が統一されてから勉強するよ」とおっしゃる方もいらっしゃいますが、それでは日本文化からますます取り残されていくと思います。ボランティアの方々にもご協力いただいて、漢点訳された読み物を増やしていただけると嬉しいです。

II 漢点字の創案

昭和44年7月17日、元大阪府立盲学校教諭、川上泰一氏によって、漢点字が創案されました。

漢点字は8点式なので、一般に使われている点字器や点字タイプライターでは書くことができません。そこで、元長野盲教諭の寺島計治氏が8点点字を書くことができるタイプライターを開発しました。漢点字を創案した川上氏が理科の先生で、タイプライターを開発した寺島氏が国語の先生だったというのはとても興味深い話です。お二人とも、視覚障害者に対する漢字教育への熱意は相当なものだったのでしょう。川上氏は、農学校と盲学校を聞き違えて盲学校に赴任されたそうです。もし川上氏が盲学校で教鞭を取ってらっしゃらなかったら、漢点字は生まれていなかったのではないのでしょうか。

漢点字を創案するに当たって川上氏は、当用漢字（現在は常用漢字）はもちろんのこと、鍼灸マッサージに必要な医学用語や経穴（つぼ）の漢字は必須と考えました。

Ⅲ 漢点字と六点漢字

「漢点字は8点で構成されているから読みにくいのでは」と思われるかもしれませんが、漢字を表す本体は6点でできていて、上2点でそのマスの点字が漢字を表すことを示します。アメリカでも情報処理点字として8点点字が使用されていて、大文字やコントロールコードを1マスで表しています。

六点漢字は、次の文字が漢字であることを表すための前置符が必要なため、漢字を表すのに3マス～4マス必要ですが、漢点字は1マス～3マス（創案当時の当用漢字は2マス以内）で表すことができるように構成されています。

数字やアルファベットが2マスでできていても読めるように、漢点字もどのようにすれば触読しやすいか、実験を重ねて生まれました。

Ⅳ 漢点字の構成

0	7
①	④
②	⑤
③	⑥

かな点字(①～⑥)の上に漢点字符号を置きます。

①の上の点を始点(0の点)

④の上の点を終点(7の点)と呼びます。

かな点字の「う」 $\begin{smallmatrix} \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \end{smallmatrix}$ に漢点字符号をつけると、「家」 $\begin{smallmatrix} \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \end{smallmatrix}$ という漢点字になります。

かな点字の「こ」 $\begin{smallmatrix} \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \end{smallmatrix}$ に漢点字符号をつけると、「子」 $\begin{smallmatrix} \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \end{smallmatrix}$ になります。

「字」という漢字は $\begin{smallmatrix} \cdot\cdot & \cdot\cdot \\ \cdot\cdot & \cdot\cdot \\ \cdot\cdot & \cdot\cdot \end{smallmatrix}$ になります。

かな点字の「き」 $\begin{smallmatrix} \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \end{smallmatrix}$ に漢点字符号を付けると、「木」 $\begin{smallmatrix} \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \end{smallmatrix}$ になります。

かな点字の「き」 $\begin{smallmatrix} \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \end{smallmatrix}$ を二つ並べて漢点字符号をつけると、「林」 $\begin{smallmatrix} \cdot\cdot & \cdot\cdot \\ \cdot\cdot & \cdot\cdot \\ \cdot\cdot & \cdot\cdot \end{smallmatrix}$ になります。

さらになかな点字の「き」 $\begin{smallmatrix} \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \end{smallmatrix}$ と「3」から数符を取ったもの $\begin{smallmatrix} \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \\ \cdot\cdot \end{smallmatrix}$ に漢点字符号をつけると、

「森」 $\begin{smallmatrix} \cdot\cdot & \cdot\cdot \\ \cdot\cdot & \cdot\cdot \\ \cdot\cdot & \cdot\cdot \end{smallmatrix}$ になります。木が三つだから「森」というように漢点字を構成しています。

漢字も段々略字化されてきていますが、漢点字は漢字の略字の集約と言えるかもしれません。

「言」  という漢点字と「心」  という漢点字を組み合わせ、「恋」  という

漢点字を構成します。この「恋」という漢字は、昔は「戀」(糸+言+糸)÷心 と書いていました。「いとし、いとしと言う心」が、現在では略字「亦(また)心」となっています。

川上氏は、このように構成要素を省略しても漢字としての本来の機能を示している事に漢点字構成の原理を見つけられたそうです。

また糸偏、さんずいなどを部首とする漢字はたくさんあるので、「糸」を糸偏、「系」を第二糸偏、「水」をさんずい、「氷」を第2さんずいなどとして用います。

視覚障害者にとって漢字の字形を知ること大切ですが、どんな部首の組み合わせでその字ができているかを知ることのほうが重要です。晴眼者との話の中で、部首の一部が思い浮かべば、漢点字の構成も想像できるからです。

V 漢点字文を書くときは

1. レイアウトは、ほぼかな点字と同じです。
2. 文節ごとの分かち書きは必要ありません。切りがよい文節で改行もしません。
ただし、数字やアルファベットの扱いはかな点字と同じで、途中で改行はしません。
3. 句点「。」の後は、読点「、」と同様に1マス空けにします。
4. 点字における助詞の「わ、え」は、墨字と同じように「は、へ」と書きます。
「う」も長音ではなく墨字と同じように書きます。
5. ひらがなとカタカナを区別するため、カタカナは 235   23 で囲んで表します。
カタカナ記号は、読点や句点、カッコ類等を超えることはありません。但し、一人の人名や一つの名称であることが明らかである場合には、続けます。

(例)  イギリス   オランダ   ベルギー   ロシア  を訪問した。

点字の考案者は  ルイ・ブライユ  である。  ア・ラ・モード  風。

6. 新たに定義された点字

ワ行の「ゐ」と「ゑ」は、「イ下がり」 ⠠ や「エ下がり」 ⠡ では、カタカナ記号と同じになってしまうので、④⑥の点を前置した 46+イ ⠠⠠ 、46+エ ⠠⠡ が新たに定義されました。

「3ヵ月」「3ヶ所」などの小文字のカタカナは、カタカナ符+46+カ ⠠⠠⠠ カタカナ符+ 46+ケ ⠠⠠⠡ とします。

7. コロンの扱い

日本語文中のコロン(:)には 5+2 ⠠⠠ の記号を用いることを原則とし、小見出しを表す場合などでは、他の記号に置き換えたり、レイアウトによって省略したりすることもできます。

なお、時分などを表わす略記法を使用するときは、かな点字と同じく 25 ⠠ とし、その後に続く数符は省きます。(例) 11:30 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠

8. ③、⑥の点のいずれもない漢点字が行頭にきたときは、かな点字と誤読しやすいので、⑥の点を前置します。これを「下点」と呼びます。

(例) 「口」 ⠠⠠ 「古」 ⠠⠠⠠ 「今」 ⠠⠠⠠

例えば、「口」 ⠠⠠ という漢字は漢点文字符号も含めてかなの「め」 ⠠⠠ と誤読する可能性があるからです。

9. 漢数字で書かれているものは、算用数字に置き換えずに書きます。

VI 漢数字が並んでいるときの表記

二〇〇六というような場合、一つずつ漢点文字符号をつけるのではなく 最初の漢数符に始点を、最後の六に終点を付け、間は省略する事ができます。 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠

Ⅶ 字式について

漢字の字形を説明するために、「字式」を用いることがあります。

字式は、56+リ下がり $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ 56+ン で囲んで表します。

縦の関係を「 / 」 $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ 、横の関係を「 + 」 $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ で表します。

たとえば「字」は「家／子」 $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ 、「林」は「木＋木」 $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$

「森」は「木／木＋木」 $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ というように表します。

Ⅷ カッコ類

1. カッコ類の記号

日本語部分のカッコ類には次の記号を使用します。

丸カッコ	開き	5+2356	$\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$	$\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$	閉じ	2356+2
第一カギ	開き	5+36	$\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$	$\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$	閉じ	36+2
第二カギ	開き	56+3	$\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$	$\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$	閉じ	6+23
二重カギ	開き	56+36	$\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$	$\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$	閉じ	36+23
ルビカッコ	開き	2356	$\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$	$\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$	閉じ	2356

2. カッコ類の使い分け

上記の五つのカッコ類は次のように使い分けます。

丸カッコは、追記される説明部分などを挟むのに用い、() に対応します。

第一カギは、会話部分を挟んだり指示する部分を挟んで示すのに用い、「」に対応します。

第二カギは、強調される部分や第一カギとは異なる指示部分を示すのに用います。

JIS 記号には特に対応せず、意味上で使い分けます。

二重(ふたえ)カギは、第一カギの中の指示する部分や書名などを挟んで示すのに用い、『』に対応します。

ルビカッコの中には原本のフリガナを書き、点訳者挿入符による説明とは区別します。

3. その他のカッコ

- 1) 上記五つのカッコ類以外に特に使い分ける必要がある場合、その他のカッコとして次の記号を用いることができます。この記号も、JIS 記号には特に対応せず、意味上で使い分けます。

開き 56+2356 ☐☐☐☐ ☐☐☐☐ 閉じ 2356+23

- 2) 段落挿入符と点訳者挿入符の開きと閉じは、かな点字と同じ記号 ☐☐☐☐ を用い、段落挿入符の内側は前後にマスあけが必要となります。

段落挿入符は、本文の要約、前文、宣伝文句、お芝居のト書きなどに使います。

点訳者挿入符の中には、原本にルビがない三マス漢字の読みや、写真や挿絵の説明を書きます。

（段落挿入符例） ☐☐☐☐ ☐ 今、漢点字が脚光を浴びている。以下は、漢点字
学習者から寄せられた手記である。☐☐☐☐ ☐☐☐☐

（点訳者挿入符例） 目が見えない人を街で見かけたら、「お手伝いしましょうか」と声をかけていただけるとうれしいです。

☐☐☐☐ 女の子が、おじさんに「お手伝いしましょうか」と
声をかけています。☐☐☐☐

- 3) 外字符はアルファベットの形そのものを表すときと略称、外国語引用符は、英単語や英文を引用するときに用います。

Ⅸ 文字繰り返し記号

カタカナ、ひらがな、漢字を繰り返す記号「ㄵ ㄶ 々」にはいずれも 236 ☐☐☐☐ を用います。

また、カタカナとひらがなの繰り返しの濁点「ㄵ ㄶ」には 5+236 ☐☐☐☐ を用います。

<注意> 句読点や中点と同じく、これらが行頭にくる事のないように配慮しなければなりません。

X 漢点訳において注意すべき事

1. 書き方の形式

1) 2行にまたがってはいけないもの

ひと続きの数字

ひと続きのアルファベットの単語・略字

単位

2マス以上の漢字

2) 行頭に書いてはいけないもの

句点・疑問符・感嘆符など

繰り返し記号

カッコ類・カタカナ符号などの閉じ記号

3) 行末に書いてはいけないもの

カッコ類・カタカナ符号などの開き記号

数符・外字符などのような前置符号

2. 漢数字の書き方

1) 漠然とした数の書き方

数十		数千万	
----	--	-----	--

2) 数の意識のないもの

直木三十五	
九十九折り	
おはこ 十八番	

XI パソコン入力で注意すべきこと

1. 下記の文字は、スキャナが誤認識することがあります。

一、一、一 （漢数字・ハイフン・長音）

二、二 （漢数字・カタカナ）

1、l、I （数字・アルファベット 小文字エル・大文字アイ）

へ、へ （ひらがな・カタカナ）

り、り （ひらがな・カタカナ）

タ、タ （漢字・カタカナ）

口、口 （漢字・カタカナ）

2. 「っ、ゃ」なども普通の大きさと認識してしまうことがありますので、点字表示や音声ソフトで確認する事が必要です。
3. 日本語変換システムの設定によっては、句読点「 、 。」の代わりにコンマ・ピリオド「 , . 」を使うこともできますが、漢点訳のときは句読点に置き換えて下さい
4. カタカナの間に中点「・」が入るとき、カタカナ符を閉じるか継続するかはパソコンは判断してくれないので、適宜カタカナ符を削除する必要があります。
5. 漢数字が続く場合の間の漢点文字符号の省略も同様です。

XII 漢点字関連 問い合わせ先

◎ 漢点字の通信教育、学習書籍、点訳図書貸出等

日本漢点字協会

〒565-0875 大阪府吹田市青山台 3-41-9

TEL 06-6831-4565 <http://kantenji.jp/>

◎ 8点用懐中点字器

社会福祉法人日本ライトハウス 点字情報技術センター

〒577-0061 東大阪市森河内西2丁目 14 番 34 号

TEL 06-6784-4414

◎ 6点8点両用点字板（漢点字の両面書きはできません）

仲村点字器製作所

〒165-0032 東京都中野区鷺の宮 1-14-3

TEL 03-3338-1384

◎ 6点8点両用点字タイプライター「テラタイプ」

長野視障機器

〒380-0803 長野市三輪 6-9-17

TEL 0262-34-5349

◎ 漢点字編集システム「OpwBE」

ムラオ電子

〒578-0912 東大阪市角田 2-8-34

<http://www.muraodos.com/>

◎ 漢点字変換ソフト「EIBRKW」

横浜漢点字羽化の会

〒131-0041 東京都墨田区八広 6-33-1

TEL 03-3614-9750 <http://ukanokai.web.infoseek.co.jp/>

漢点字の組み立て

I 第一基本文字 (57 字)

200 以上ある漢字の部首の中で、特に重要な部首を選んで1マスで表したものです。

かな点字の発音を漢字の発音と合わせた文字が 20 字あります。ほかに数は少ないのですが、点の配列と漢字の形が似ている字もあり、残りは特別の根拠はありませんが、全体の漢点字がうまく整理できるように決められています。

非常に良く使われる部首、たとえば「ごんべん」「さんずい」などは下がり字を利用して部首を二つ作り「第2ごんべん」「第2さんずい」などを作っています。

イ	糸(いとへん)	イサガリ	系(第2いとへん・いとがしら)
ウ	家(うかんむり)	25	宿(ひとあし)
エ	言(ごんべん)	エサガリ	語(第2ごんべん)
オ	頁(おおがい)	ヲ	貝(かいへん)

カ	金(かねへん)	サ	都(こざとへん・おおざと)
キ	木(きへん)	シ	市(はばへん)
ク	草(くさかんむり)	ス	発(はつがしら)
ケ	犬(けものへん)	セ	食(しょくへん)
コ	子(こへん)	ソ	馬(うまへん)

タ	田(たへん)	ナ	人(にんべん)	ナズレ	仁(第2にんべん)
チ	竹(たけかんむり)	ニ	水(さんずい)	ニスレ	氷(第2さんずい・にすい)
ツ	土(つちへん)	ヌ	力(ちからへん)		
テ	手(てへん)	ネ	示(しめすへん)		
ト	戸(とかんむり・とだれ)	ノ	私(のぎへん)		

ハ	⠠	走(そうによう)	マ	⠠	石(いしへん)
ヒ	⠠	進(しんによう)	スウ	⠠	火(ひへん)
フ	⠠	女(おんなへん)	ム	⠠	車(くるまへん)
ヘ	⠠	玉(たまへん)	メ	⠠	目(めへん)
ホ	⠠	方(かたへん)	モ	⠠	門(もんがまえ)

ヤ	⠠	病(やまいだれ)			
ユ	⠠	行(ぎょうにんべん)	45	⠠	比(ならびひ)
ヨ	⠠	店(まだれ)	56	⠠	数(漢数符)

ラ	⠠	月(つきへん)	ラサガリ	⠠	肉(にくづき)
リ	⠠	分(はちがしら)	リサガリ	⠠	日(ひへん・ひらび)
ル	⠠	性(りっしんべん)	ルサガリ	⠠	心(こころ・したごころ)
レ	⠠	口(くちへん)	レサガリ	⠠	囲(くにがまえ)
ロ	⠠	十	ン	⠠	止(とめる・とめへん)

Ⅱ 第二基本文字と傍側基本文字

これは第一基本文字を補うもので、偏や旁・足などに当たる部首を統合整理する為に、2マスで構成された文字です。

第二基本文字は、主体となる文字(1マス漢字)を第一マスに置き、第二マスに①、②、③の点のいずれか1点を付加して構成します。これに対して傍側基本文字では、主体を第二マスに置き、第一マスに④、⑤、⑥の点のいずれか1点を付加して構成します。

尚、「えんによ」「なべぶた」などは重要な部首であるにもかかわらず、漢字では独立文字になっていません。しかし、漢点字では第一基本文字の時と同様独立文字として扱います。

1. 第二基本文字の例

動物に関する部首 (「ソ」は、「馬偏」「牛偏」「羊偏」「豕(いのこ)偏」として使われる「動物偏」)

ソ+1		牛(うしへん)	ソ+2		羊(ひつじへん)	ソ+3		豚(いのこへん)
-----	--	---------	-----	--	----------	-----	--	----------

体の一部になる部首 (「ミ」は、「耳偏」「身偏」「足偏」として使われる「身体偏」)

ミ		第一基本文字 耳(みみへん)	ミ+1		身(みへん)	ミ+2		足(あしへん)
---	--	-------------------	-----	--	--------	-----	--	---------

漢字の形が「方」に似ている (「ホ」は、「方偏」「夕偏」「がっぺん」として使われます)

ホ		第一基本文字 方(かたへん)	ホ+1		夕(ゆうへん)	ホ+2		死(がっぺん)
---	--	-------------------	-----	--	---------	-----	--	---------

漢字の形が「玉」に似ている (「ヘ」は、「玉偏」「王偏」「主偏」として使われる「王様偏」)

ヘ+1		王(おうへん)	ヘ+2		将(しょうへん)	ヘ+3		主(あるじへん)
-----	--	---------	-----	--	----------	-----	--	----------

「によ」になる部首 (「ハ」は、「そうによ」「しによ」「えんによ」のほかに、「ヒ」と同じく「しんによ」としても使われます。)

ハ+1		延(えんによ)	ハ+2		支(しによ)	ハ+3		遊(しんによ)
-----	--	---------	-----	--	--------	-----	--	---------

漢字の頭になる部首 (③⑥の点は、「つめかんむり」「のづめかんむり」「なべぶた」として使われますが、人間の希望を表わすことから「希望偏」)

36+1		愛(のづめかんむり)	36+2		光(ひかりへん)	36+3		文(なべぶた)
------	--	------------	------	--	----------	------	--	---------

発音が似ている「ヤ」は、「病だれ」「山偏」などとして、「カ」は「金偏」「川偏」として使われます。

ヤ		第一基本文字 病(やまいだれ)	ヤ+1		山(やまへん)	ヤ+2		矢(やへん)
---	--	--------------------	-----	--	---------	-----	--	--------

カ		第一基本文字 金(かねへん)	カ+1		川(かわへん)
---	--	-------------------	-----	--	---------

全体の漢点字がうまく配列できるように定めた部首

「シ」は「巾偏」「色偏」として使われ、色に関する漢字も作られます。

シ+1		色	シ+3		巾	シ+カ		赤	シ+ク		黒
-----	--	---	-----	--	---	-----	--	---	-----	--	---

「マ」は、「石偏」「立偏」として使われます。

マ		第一基本文字 石(いしへん)	マ+1		立(たつへん)
---	--	-------------------	-----	--	---------

2. 傍側基本文字の例

「つくり」として重要な部首

(漢点字の全体の構成を決める上でも大切なので、すべて独立文字となっています)

4+ヌ		刀(りっとう)	4+ノ		段(るまた)	4+ニスレ		改(ぼくによ)
-----	--	---------	-----	--	--------	-------	--	---------

かな点字の発音を利用した部首

4+ト		長	4+ヒ		皮	4+ソ		曾	4+コ		共
5+コ		呉	6+コ		公	5+ユ		兪(ゆ)	6+エ		袁(えん)

Ⅲ 対象基本文字

漢字の中には「一、二、三」や「上、中、下」のように、お互いに関係し合って成り立っている文字があります。これらを「対象基本文字」と言い、他の部首と組み合わせさせて別の漢字ができます。

対象基本文字は、第一マスに「前置符号」を付けて表しています。

1. 漢数字

前置符号としては第一マスに「漢数符」56 𠄎 を付け、第二マスは算用数字と同様にします。なお漢数符は、それだけで「数」という独立した漢字になります。

56+1	𠄎	一	56+0	𠄎	〇(零)	0	𠄎	十	56+𠄎	𠄎	百
56+ㄗ	𠄎	千	56+ㄗ	𠄎	万	56+ㄗ	𠄎	億	56+25	𠄎	兆

2. 比較文字

「上と下」「父と母」のように対象関係にある漢字や物の量を計る単位になる漢字です。

比較文字は前置符号として「比較符号」45 𠄎 を付け、第二マスでお互いの関係を示します。

比較符号は漢数符と同様「比」という独立した漢字になります。

45+ㄗ	𠄎	上	45+25	𠄎	中	45+36	𠄎	下			
45+23	𠄎	左	45+56	𠄎	右	45+ㄗ	𠄎	父	45+ハ	𠄎	母
45+ㄗ	𠄎	東	45+ニ	𠄎	西	45+ミ	𠄎	南	45+キ	𠄎	北

単位

45+ㄗ	𠄎	寸	45+ㄗ	𠄎	尺	45+リ	𠄎	里	45+ㄗ	𠄎	斤	45+ㄗ	𠄎	升
------	---	---	------	---	---	------	---	---	------	---	---	------	---	---

Ⅳ 合成文字

1. 第一合成文字

第一基本文字を2字組み合わせた字。

1) 単純合成

第一基本文字がそのままの形で単純に二つ組み合わせられている

ウ+コ		字	ウ+ネ		宗	ウ+フ		安	ウ+ヘ		宝
キ+キ		林	キ+メ		相	サ+ホ		防	サ+ム		陣
タ+ヌ		男	モ+レ		問	ヨ+ルサガリ		応	レサガリ+ヘ		国

2) 二字選択

基本文字が3文字以上組み合わせられて出来ている漢字の場合、その中から2字を選び出して作る。

これを「二字選択」と言い、漢点字構成の原理になっています。2字を選び出すために次のような原則に従います。

漢字の意味において重要な「へん」や「つくり」など分類上大切な基本文字は選択する。

エ+スウフ		談	ナ+レ		保	キ+ルサガリ		想	キ+ナ		来
-------	---	---	-----	---	---	--------	--	---	-----	---	---

一連文字 …… 漢字の中にはお互いに意味や読みが関係し合っている一連の字があるので、漢点字でも連携が保たれるよう基本文字を選択する。

たとえば、何でも古くなると硬くなって固まります。食べ物は苦い味がしたり、草や木は枯れてしまいます。

このような意味で「古」という漢字が中心になって一連の漢字が生まれます。

レ+口		古	レサガリ+口		固	ク+口		苦	キ+口		枯
-----	---	---	--------	---	---	-----	---	---	-----	---	---

2. 第二合成文字

第二基本文字は合成されると第二マスの点が無くなるので、第一基本文字と同じ形になります。

「ソ」=動物偏を使った字

ソ+タ		駅	ソ+シ		特	ソ+ケ		美
-----	--	---	-----	--	---	-----	--	---

③⑥を使った字

36+ヌ		労	36+チ		交
------	--	---	------	--	---

「交」を「つくり」にした字

キ+チ		校
-----	--	---

「へ」を使った字

キ+ヘ		柱	ナ+ヘ		住	ヘ+リ		理
-----	--	---	-----	--	---	-----	--	---

「ヤ」を使った字

ヤ+ウ		峠	ヤ+シ		痔
-----	--	---	-----	--	---

「マ」を使った字

マ+ヲ		新	マ+メ		親
-----	--	---	-----	--	---

「ホ」を使った字

ホ+ホ		多	ホ+ソ		少
-----	--	---	-----	--	---

「少 小」を組み込んだ字

ソ+メ		省	ニ+ソ		消
-----	--	---	-----	--	---

3. 対象合成文字

第一基本文字と対象基本文字とを組み合わせで作られた文字です。合成文字を作るときは「二字選択」の原理に従って、数符や比較符号は取り除かれます。

「寸」を「つくり」や「足」にした字

キ+シ		村	ウ+シ		守	エ+シ		討	ツ+シ		寺
-----	--	---	-----	--	---	-----	--	---	-----	--	---

「寺」を「つくり」にした字

テ+シ		持	リサガリ+シ		時	ユ+シ		待	エサガリ+シ		詩
-----	--	---	--------	--	---	-----	--	---	--------	--	---

「千」を組み込んだ字

レ+セ		舌	エ+セ		話	ニ+セ		活
-----	--	---	-----	--	---	-----	--	---

「兆」は、人が座っている形から変形した漢字で「にんによう」として「つくり」や「足」になります。漢点字では主に第二マスに入ります。この場合も二字選択の原理に従って②⑤だけで「にんによう」を表します。

ヒ+25		逃	レ+25		兄	メ+25		見
------	--	---	------	--	---	------	--	---

「斤」は斧の形から変形した漢字で「おのづくり」となります。漢点字では第二マスに入り③⑤だけで「おのづくり」を表します。

テ+ヲ		折	ヒ+ヲ		近
-----	--	---	-----	--	---

次の3字はいずれも比較符号が無くなっています。

イ+ヒ		練	ニ+フ		要	ノ+キ		乗
-----	--	---	-----	--	---	-----	--	---

「木偏・草冠」を使った植物の固有名詞は多いので、これ等はすべて「ルサガリ」の符号で表わします。

桜 は「きへん」を、菊 は「くさかんむり」を示す。

ルサガリ+ウ		杉	ルサガリ+シ		柿	ルサガリ+45		莓	ルサガリ+キ		茶
--------	--	---	--------	--	---	---------	--	---	--------	--	---

4. 傍側合成文字

傍側基本文字を第二マスに組み込んだ文字で、かな点字の発音が合成文字の中に生かされています。

「衰」を使った字

ヒ+エ		遠	レサガ ^リ +エ		園	ケ+エ		猿
-----	--	---	---------------------	--	---	-----	--	---

「兪」を使った字

ル+ユ		愉	エ+ユ		諭
-----	--	---	-----	--	---

「皮」を使った字

ヤ+ヒ		疲	ユ+ヒ		彼	ニ+ヒ		波
-----	--	---	-----	--	---	-----	--	---

「曾」を使った字

ナス ^レ +ソ		僧	ツ+ソ		増
--------------------	--	---	-----	--	---

「共」を使った字

ナ+コ		供	タ+コ		異
-----	--	---	-----	--	---

「呉」を使った字

フ+コ		娛	エ+コ		誤
-----	--	---	-----	--	---

「刀」(りっとう)を使った字

ノ+ヌ		利	ホ+ヌ		列	ナ+ヌ		例
-----	--	---	-----	--	---	-----	--	---

「段」(るまた)を使った字

テ+ノ		投	ユ+ノ		役	ニ+ノ		没
-----	--	---	-----	--	---	-----	--	---

「改」(ぼくによ)うを使った字

キ+ニス ^レ		枚	レ+ニス ^レ		故
-------------------	--	---	-------------------	--	---

V 近似文字

近似文字は、墨字の漢字で形がよく似通ったものを整理し2マスで表した字です。

第一マスに主体を置いた字では、第二マスに④、⑤、⑥の点のいずれか1点を付加し、逆に第二マスに主体を置いた字では、第一マスに①、②、③の点のいずれか1点を付加して表します。第二基本文字や傍側基本文字の付加点は、主体に近い位置に付いているのに、近似文字の付加点は主体から遠い位置についているところにその違いがあります。

主体を第一マスに置いた近似文字の例

キ+4		未	キ+5		末	キ+6		本
タ+4		由	タ+5		曲	ス+4		久

主体を第二マスに置いた近似文字の例

1+ケ		天	2+ケ		太	3+ケ		夫
-----	--	---	-----	--	---	-----	--	---

「日」「十」「心」にそれぞれ1本の線を付けると次の漢字になります。漢点字では④または⑤の点を付けます。

リサガリ+4		旧	口+4		才	ルサガリ+5		必
--------	--	---	-----	--	---	--------	--	---

「川」に三つの点を付けると次の漢字になります。

カ+4		州
-----	--	---

億の「つくり」だけを取り出した漢字です。

1+ナ		意
-----	--	---

近似文字と他の基本文字との合成文字です。

レ+4		味	ナ+6		体
-----	--	---	-----	--	---

Ⅵ 発音文字

漢点字には、発音をそのまま文字に置き換えた字も作られています。

エ+ㄣ		円	ㄣ+25		争	セ+イ		生	タ+イ		対
-----	---	---	------	---	---	-----	---	---	-----	---	---

発音文字「ミ+ㄣ」とその合成文字です。

ミ+ㄣ		民	メ+ㄣ		眠
-----	---	---	-----	---	---

発音文字「ハ+ㄣ」とその合成文字です。

ハ+ㄣ		反	キ+ㄣ		板	セ+ㄣ		飯	ヒ+ㄣ		返
-----	---	---	-----	---	---	-----	---	---	-----	---	---

訓を利用した発音文字です。

コ+ト		事	オ+ニ		鬼
-----	---	---	-----	---	---

Ⅶ 逆転文字

二字選択を原則にして作られている漢点字は部首を統合整理しているため、合成漢点字が「衝突」する場合があります。逆転文字とは、どのように工夫しても避けられない「衝突」が出た場合、「へん」と「つくり」を逆転させて作った文字のことです。

コ+フ		好	ㄣ+ニ		洋	ロ+キ		材	メ+ㄣ		着
-----	---	---	-----	---	---	-----	---	---	-----	---	---

次の２字はお互いに衝突しますので、料のほうを逆転させました。

ト+ノ		料	ノ+ト		科
-----	---	---	-----	---	---

Ⅷ 特殊文字

今までに述べた方法を使っても「衝突」が避けられない場合に、特別な方法を使って作られた文字が特殊文字です。

部首を1字だけ選択した字

ウ+キ		空（「うかんむり」だけを選択し「キ」は漢字に関係ない）
ユ+25		弟（「弓」だけを選択し「兄」と形をあわせた）

漢字の意味を点の位置で示した字

25+ニ		垂（「25」と「ニ」が垂直になっている）
ニス ^レ +ウ		浮（第2さんずい+「上」）
ニス ^レ +36		沈（第2さんずい+「下」）

「日」を時間を表す前置符号にした字

リサガ ^リ +ソ		秒	リサガ ^リ +カ		年
---------------------	--	---	---------------------	--	---

「色」からとった「シ」を色を表す漢字の前置符号にした字

シ+1		色	シ+カ		赤	シ+ク		黒			
シ+コ		黄	シ+セ		青	シ+ミ		緑	シ+ム		紫

特殊文字と他の基本文字を合成して作った字

メ+ニ		睡	リサガ ^リ +セ		晴	ニス ^レ +セ		清
-----	--	---	---------------------	--	---	--------------------	--	---

